

令和6年度より「第3期宮城県歯と口腔の健康づくり計画」を始動するにあたり、令和6年度の歯科保健事業においては下記3項目が拡充のポイントとなる。

大規模災害時に備えた平時からの啓発や連携体制の構築

【背景】

- ・避難所での生活では、義歯の不具合や歯痛、歯周病の進行等により、食べることへの深刻な問題が発生する。
- ・要介護者は、適切な口腔ケアがなされず、感染症や誤嚥性肺炎のリスクが高まり災害関連死に至ることもある。
- ・平成19年3月に宮城県歯科医師会と「災害時の歯科医療救護に関する協定書」を締結し、東日本大震災においては当該協定に基づき歯科医療救護活動等が行われた。

【現状】

- ・災害時の避難所での歯科保健医療救護活動の重要性について、市町村等の認知度を高め、必要な派遣要請が速やかになされる仕組みづくりが必要である。
- ・自身の命と健康を守るため、災害時に口の健康も意識する必要があることについて、住民に対する普及啓発が必要。

(第3期計画における取組の方向性)

- ・研修等の機会を通じて平時から啓発に努め、関係団体と連携し共通認識の醸成を図る。

⑱市町村歯科保健担当者研修会

※拡充

保健所を交え、県北地区と県南で1回ずつ計2回グループワーク形式で研修を実施。

上記の他、大規模災害時の避難所等への歯科医療救護に関する対応について関係団体や関係各課との連携体制を強化し、今後具体的な指針の策定の検討に繋げる。

災害発生時に備えた連携体制強化により、誤嚥性肺炎等の二次的な健康被害を予防

口腔機能の獲得・維持・向上に向けた取り組み

【背景】

- ・小児の口腔機能発達不全症や高齢期の口腔機能低下症が、食生活を通じた健康維持に大きく影響する。
- ・加齢に伴う口の衰えに伴い社会参加の機会が減ることが、心身の衰えにつながることを認識が広まってきている。(オーラルフレイル予防への取り組み)

【現状】

- ・長いマスク生活の影響などにより子どもの口呼吸の習癖などが懸念されている。
- ・高齢期の口腔機能の維持やフレイル予防のためには、壮年期・中年期のうちから、歯と口腔の健康やオーラルフレイル予防を意識することが必要である。

(第3期計画における取組の方向性)

- ・口腔機能の獲得についての知識の啓発を図る。
- ・高齢期のオーラルフレイル対策の普及啓発に加え、高齢期以前からのオーラルフレイル予防の啓発等により取組を強化。

⑩少年期の歯と口腔の健康づくり支援者研修会

※拡充

歯科医師会と連携し養護教諭や学校歯科医向けの教育教材を改定、子どもの「お口ぼかん」に関する啓発等を追加

⑤口腔機能維持・向上事業

※新規

「ゆっくり良く噛んで食べる」ことや口の体操に関する啓発資料を作成、スマートみやぎ健民会議会員企業等で活用

口の健康づくりを通じて、食べる喜び、話す楽しみ等の生活の質の向上を目指す

歯・口腔の健康格差の縮小への取り組み

【背景】

- ・むし歯のない子どもの割合は増加しているが、むし歯を多数もつ子どもがみられる。
- ・むし歯のある人の割合に地域間格差がみられる。

【現状】

- ・県の子どものむし歯の状況は着実に改善傾向にあるが、一人で4本以上のむし歯を有する子ども(3歳児)が一定数(R3 4.1%)いる。
- ・12歳児の1人平均むし歯本数(R3)は、最も少ない市町村で0.14本、多い市町村は2.23本と大きな差が認められる。

(第3期計画における取組の方向性)

- ・市町村、関係団体等と連携した取り組みの拡充

③フッ化物洗口普及事業

※拡充

研修会の開催やマニュアルの作成に加え、学校でのフッ化物洗口実施を補助する人材確保・育成を支援。

⑩口腔保健支援センター関係事業

むし歯がある子どもとその保護者に対して、重点的な保健指導や予防措置の取り組みが推進されるよう市町村を支援、連携体制を強化

地域と連携した取組を拡充し、適切かつ効果的な歯科保健の推進により健康格差の縮小を目指す

その他拡充等

⑧特定健診歯科口腔保健指導導入事業

※新規

市町村や歯科医師会と連携し、市町村国保対象者の特定健診に併せ歯科保健指導を実施。歯と口腔の健康づくりを通じ、生活習慣病の発症や重症化予防等を図る。

①妊娠期における歯科保健対策事業

※拡充

歯科医師会と連携し、妊産婦向けの啓発リーフレットを改定、市町村や産科医院を通じて配布し、胎児期からの切れ目のない歯科口腔保健の取り組みを推進。

⑪障害児親子歯みがき教室

※拡充

歯科衛生士会と連携し、児童発達支援施設等での歯みがき教室に加え、障害児・者の歯科保健や公衆衛生活動に興味のある歯科衛生士の裾野を広げるための研修会を開催

⑯食育を通じた歯と口腔の健康づくり事業

※組替、拡充

歯科医師会と連携し、望ましい食べ方(ゆっくりよくかんで食べるなど)に関する体験型の啓発事業を実施。特に家族ぐるみでの取組を促進。